



ITで 豊かな水辺環境を 呼び戻す

一般社団法人 ClearWaterProject
代表理事 瀬川貴之氏



— CWP設立から3年、水辺環境に関するサービスを次々にリリースしていますね。

現在、4つのサービスを運用しています。河川のレジャー情報アプリ「川遊びマップ」で川遊びファンの裾野を広げることで環境整備への関心を醸成し、クラウドファンディング「カワサポ」で環境団体を応援したり、漁協による河川の整備資金にもなるネット遊漁券購入できる「つりチケ」を広め、ゆくゆくはユーザー自ら「AQMAP(アクマップ)」を使った河川調査に乗り出せる仕組みです。

— 瀬川さんが水辺環境をテーマに活動をはじめたきっかけは何ですか。

ベンチャーで新たな社会的価値を創出することに関心があり、大学卒業後は業務系システムのベンチャー企業に就職。経験と実績を積み、働きがいも増す一方で、一生を捧げる仕事か悩むよ

うに。そんな時、幼少時に家族で出かけた川遊びの楽しさや、今は息子を連れて趣味のサーフィンを楽しむ時の海の汚さといったことに思いを馳せ、人間が本能的に気持ち良いと思える水辺の環境づくりに本気で取り組みたいと考えました。「やりたいこと＝水辺」「できること＝IT」「社会的価値の創出」の掛け合せであれば、自分としてはやり抜く価値があると考えました。

— 1人で始めた活動が今では職員も10人。賛同者は増えていますね。

そのほとんどが、システムエンジニアです。設立時から、社会的インパクトのためには事業ボリュームも重要と考えており、資金集めのうえでも、技術者が多いことは強みです。WEBサイトやアプリ開発を請け負う別会社を運営し、その事業利益をCWPの活動に還元できます。「つりチケ」をはじめ事業収益を見込めるところまで来ており、

将来的には、活動を通じた事業、行政の受託事業、寄付といった収入源を均等にしたいと思っています。エンジニアは室内作業が多く、その反動か、アウトドア好きが多いのも仲間が増えた嬉しい要因かもしれません。

— 各サービスを通じて、どんな社会をつくりたいと思っていますか。

「川遊びマップ」の投稿を見ても、水質がきれい、生き物が多く生息し、水辺に人が集まれる場所が人気です。でも現実には、防災の観点から河川には落差工や堰堤えんていの設置により魚の回遊が阻まれ、生き物は増えるどころか減る一方です。水辺環境が豊かになれば、レジャーはもとより、食生活や文化も豊かになり、人間の幸福につながります。国内総生産(GDP)は国の金額換算生産量の総量で個人の幸福の一面しかわかりません。日本人口の減少をふまえても、せめて一人当たりのGDP、実際は個人個人が幸せだと思える状況を目指すのが「幸せな満足度の高い社会」だと思います。

[聞き手: つな環編集部]

瀬川貴之(せがわ たかし)

2004年大阪大学経済学部卒業後、株式会社ワークスアプリケーションズ就業を経て、2013年一般社団法人ClearWaterProject(クリアウォータープロジェクト)設立。ITで「豊かな水辺環境と水辺文化を創出する」ことを目指し、「AQMAP」「カワサポ」「川遊びマップ」「つりチケ」のシステム開発や運用を軸に事業展開。



写真左) 川遊びスポットの情報を登録したり、条件検索もできる「川遊びマップ」。写真上) CWPは、ソフトウェア開発のほかにも環境コーディネータ事業も実施。